

第 66 回神奈川建築コンクール 一般建築物部門審査総評

審査委員：藤岡 泰寛

今年度の一般建築部門への応募は昨年より 7 件減少し 24 件となった。

まず、選考の経緯について記しておく。書類審査による一次選考では、あらかじめ応募作品の資格を確認した上で、各作品に対して各審査委員が評価点をつけ集計をした結果の表を参考に全ての作品について合議し現地審査の対象となる建築作品を絞り込んだ。その結果、本年度の現地審査の対象となる建築作品は 10 作品となった。

現地審査は 8 月下旬に 2 日間かけておこなわれ、各作品の印象や評価について現地で活発に意見交換された上、最終的な選考を投票により行った。視察後の第 2 回審査委員会で各人の評価点数の合計点を参考にして上位から順に受賞作を選んだ。この結果、最優秀賞 2 件、優秀賞 6 件、アピール賞 1 件となった。

最優秀賞が例年より多く 2 件選出され、ここ数年では 3 年ぶりの開催となった令和 4 年度以来の結果となった。全体的には応募作品に特色ある取り組みや時節に応えたものなどが多く含まれ、幅の広がりを感じさせた。最終的には神奈川県の特徴と新しい時代の方向を示す建築に賞を出すことができたように思う。

最優秀賞となった「SUPERNOVA KAWASAKI」は、川崎駅西口再開発用地の遊歩道終端に建てられたライブハウスである。敷地面積が約 1,000 m²と小さく線路と道路に挟まれた非整形で電磁波等の影響もある敷地に、同時公演可能な大小 2 つのホールが収められ市民に開かれた緑地が生まれている。建築表現として目指された土手もホールの音もどちらも人の手で創られるものとして総合的に親しみやすい建築となっている。

「川崎市役所本庁舎」は、市民に親しまれてきた旧本庁舎の跡地に建てられた都市型防災庁舎である。多摩川の浸水被害を受けないよう中間階免震構造を採用するなどあらゆる都市災害が想定されている。超高層建築での自然換気導入、旧本庁舎の一部の新築復元、低層階に市民利用可能な会議室を集約する計画上の工夫など総合的に優れた建築となっている。

つづいて優秀賞の「Shonan Innovation Lab」は、建機の ICT 開発を担う企業の開発棟である。建物中央部に大きな吹き抜けを設けこの周辺に協業スペースを配しセキュリティラインを工夫することで共創空間とパッシブな環境性能、浸水対策を実現している。この吹き抜けが一日の中で様々な表情を見せ優れた執務空間を創りだしている。

「ミュージックテラス (Kアリーナ横浜、ヒルトン横浜、Kタワー横浜)」は、世界最大級の 2 万人収容の音楽アリーナを中心とした大規模集客施設である。音楽に特化したアリーナとして多様な演出を可能にしているだけでなく、短時間での設営・撤収を可能とし騒音や光害の軽減に努め周辺環境との調和も図られた優れた建築となっている。

「松島病院」は、既存の病院の老朽化により移転統合されて生まれた病院である。高さ 15m

の高低差と北側の細街路が残る崖地が敷地として選ばれ、構造的工夫により崖地崩落のリスクを軽減し歩道付き道路に拡幅された。快適な療養空間と地域の防災性向上の両面を実現する優れた建築となっている。

「**横浜コネクトスクエア**」は、横浜市市街地環境設計制度により容積緩和を受けた超高層複合ビルである。事業者自ら隣地所有者に働きかけて舗装整備を行い地上に新しい都市軸を創り出すなどの工夫がみられ、公開空地の立体的な活用とあわせて人の流れや溜まりが丁寧なデザインされた優れた建築となっている。

「**箱根ホテル小涌園**」は、同名の旧ホテル（吉村順三設計）の建替計画である。等高線に沿った両翼を広げたような佇まいを継承するとともに、インテリアに神奈川県産の無垢材を多用し、既存基礎の支持地盤を極力活かすなど、コストを抑えることと歴史を継承することを両立した優れた建築となっている。

「**横浜 BUNTAI ホテルコメント横浜関内**」は、旧横浜文化体育館の跡地に建てられたアリーナ施設とホテルの複合施設である。みなと大通り側から大階段を上りアリーナのメインエントランスに導かれていく動線計画は、ホテルの2階部分レストランとも自然に繋がり行列や休憩もまちの新しい風景となる魅力的な建築となっている。

さらに今回は、アピール賞（環境）を「**沼間小学校区放課後児童クラブ**」に授与することとした。これは、木をふんだんに使った構造・内装や、卓越風の通り抜ける自然通風の計画、高断熱化や太陽光パネル発電などによる省エネ・創エネの取り組みなどが優れているところが評価されたものである。